

名古屋港への重点投資に関する緊急要望

日頃は、名古屋港の発展のために、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

名古屋港は、平成20年の総取扱貨物量が2億1,813万トンで7年連続、また、貿易額は16兆3,602億円と8年連続で全国港湾において第1位の座を堅持しており、当地域の海の玄関として着実な成長と発展を続けております。

一方、世界規模での景気悪化や社会経済活動のグローバル化の進展、港湾間競争の激化などによって、わが国港湾を取り巻く環境は著しく変化しております。

このような情勢の中、名古屋港は、当地域経済のみならず、日本経済のモノづくり産業を物流面で支え、今後さらに国際競争力を備えた利用しやすい港として整備していくことが大変重要であり、港湾機能の強化・拡充や背後地域を連結する広域幹線道路ネットワークの整備が必要不可欠であります。

つきましては、今後の重点的な整備に当たりまして、財政多難な折ではございますが、下記事項につき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

国際競争力の強化に向け、コンテナターミナルや広域幹線道路ネットワークの整備を推進すること

○スーパー中枢港湾の絞込みについて

港湾への重点投資にあたっては、総取扱貨物量や貿易黒字額など、日本の国際競争力に大きく貢献し、スーパー中枢港湾のモデルバースとして、最新鋭の自動化荷役システムを導入するなど先導的な取組みを実施している名古屋港を引き続き重点的に整備する港湾として選択すること。

○鍋田ふ頭コンテナターミナルについて

経済成長著しいアジア・中国からの物流需要に対応するため、遅延することなく、鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの整備を推進すること。

○名古屋環状2号線について

整備計画区間に格上げされた西南部・南部（名古屋西ジャンクション～飛島インター間）については、三大都市圏の環状道路の一つに位置づけられており、スーパー中枢港湾である名古屋港への重要なアクセス道路であるため、早期に整備すること。

平成21年12月

名古屋商工会議所
会頭 岡田 邦彦

(社) 中部経済連合会
会長 川口 文夫

名古屋港振興協会
会長 高橋 治朗

名古屋港利用促進協議会
会長 高橋 治朗

名古屋海運協会
会長 廣瀬 隆

名古屋港運協会
会長 伊藤 正

東海倉庫協会
会長 木全 英一